

## 基本なくして技術は生まれぬ

株式会社 北嶋紋製作所 代表取締役 北嶋 實

### 1. はじめに

ヘラ絞り加工とは、非常に原始的な方法で物を作る技術であるが、ヘラ絞りから生み出される高度な技術は、宇宙、航空、原子力等の工業や他の産業にとって、必要不可欠な技術である。塑性という金属の変形しやすい性質を利用した加工方法で、切削加工のように金属の塊まりから削りだして製品を作り出すのではなく、1枚の円盤状の金属板から素材の体積をあまり変えることなく製品を作り出せるため、材料に無駄がないという利点がある。又プレス加工のように複雑な金型を必要とせず、オス型一個で製品を作る事が可能である。製品製作のための設備が簡単で、費用が安く出来るのが特徴で、プレス量産型製作前の製品品質確認など、試作加工として広く利用される。

### 2. プロフィール

当社は、ヘラ絞りを行っている会社である。1947年、戦後の混乱期に長男の北嶋隆一が、父親の力を借りて自宅の一部を工場にしたのが始まりである。工場と言うと聞こえは良いが、零細企業以下の状態であったようである。創業当時、設備はもちろん材料なども手に入らず、仕事らしい仕事もなく、近隣の家庭などから頼まれてナベやフライパン、弁当箱を作っていたそうである。

### 3. ヘラ絞りとは

ヘラ絞りと言う名前や言葉は聞いた事がない、又は聞いた事はあるが、どのような職業なのかはまったく理解できないと言う方がほとんどであろう。客先においても北嶋紋の名前はよく知っているが、どのような方法で物を作っているのか知らないと答える方が多い。簡単に説明すると、ロクロと呼ばれる旋盤に似た機械に製品のもととなる金型が取り付けられており、その金型に1枚の薄い金属の円盤を固定させ、回転をさせながらヘラ棒と呼ばれる棒状の道具で、この原理を応用し、自分の体重をかけながら少しずつ金型に沿わせて成型する方法である。

### 4. いつ、何処で生まれた技術か

ヘラ絞り発祥の地は中世のヨーロッパと言われているが定かではない。日本に伝わった時期でさえもはっきりとは解らないような状態である。同業者仲間にヘラ絞り屋のルーツを調べようと提唱してはいるものの、あまりにも情報が乏しいのが現状である。

私を知る限りでは、現存する資料として、中世のヨーロッパの木版画と呼ばれている物の写真がある。古めかしい民族衣装を着てあご髭をのばした二人の男が写っている。一人は後ろで大きな木の車輪を手で回して、フライホイルの応用で前の男のロクロに回転を伝達させている。

前側にいる男はロクロに取り付けたミルクポットか、水差しのような形をした容器を長い棒状のもので加工している。それはまさに我々の、ヘラ絞りそのままの姿である。モーターが発明され、一般に普及するまでの間、日本にも回し屋と呼ばれる職業があったと聞いている。

## 5. ヘラ絞りの職人に求められているもの

ヘラ絞りの職人は一人前になるには10年位はかかると言われていたが、最近では10年では一人前になれない時代になってきている。その理由はここ数年来、寸法精度が非常に高いものを要求されるようになってきていることである。世界との品質競争が激しくなっている表れではないだろうか。寸法だけではなく材質形状など、以前では限界と思われた製品が今では出来てあたりまえの時代になってきている。一つの困難な仕事を成し遂げほっとする間もなく次の困難な仕事が入ってくる、そんな毎日である。

40年、50年とこの仕事に携わっている職人達でさえ毎日が1年生であり、毎日が勉強であり、たとえ1日たりとも、努力を惜しむことは出来ないのである。そのような毎日の繰り返しのなかで思わぬ窮地に立たされることもある。

出来るとふんで受けた仕事がなんとしても作れないのである。考えられるすべての手法をもってしてもうまく行かないのである。数十年に一度有るか無いかの危機的状況なのだ。当然納期はなくなり、客先からは何回となく催促の電話が入り、食事も喉を通らなくなる。頭の中はどうしたら製品が作れるかと言う考えで一杯になり、夜も寝られないようになってくる。

そのような最悪な状況を解決してくれるのが、日頃忘れておろそかにしてしまっている基本なのである。経験が有れば有るほど、技能が有れば有るほど、基本を飛び越して製品を作る傾向に走るものである。ビジネスである以上、それも大変重要なことである。同じ品質に作れるも

のならば短時間でより多くの製品を作り出すのも職人に与えられた使命である。しかし、窮地に陥った時こそ、謙虚な気持ちに戻らなければならないのである。

そして基本どおりにひとつひとつ、確実に作業を進める事により問題が解決されるのである。

## 6. 技術は手品のタネのようなもの

あれほど苦労した製品も出来てしまえば何の事はない。基本を忘れたおごりが製品を作り出せない原因を作っているのである。

手品のタネあかしを見せられると、誰でも「なーんだ」と思うものである。それと同じで、製品も出来てしまえば、「なーんだ」と思えるのである。技術とは長い経験と、様々な苦労の積み重ねのなかから生み出された大変なものである反面、基礎（基本）を積み重ねた者にとっては、意外と簡単な手品のタネでもあるのだ。そう考えると、手品師は世界でも有数の技術者である。

## 7. 今後の展望

世の中に金属が存在するかぎり、ヘラ絞りの仕事は永久に存続する。以前と比べて金属に変わる物が発明されたりして、少しずつではあるが金属に取って代わる製品が出始めてきているようだ。これから先、ヘラ絞りの仕事が増えるのかあるいは減るのかは、我々の対応の仕方にかかっている。その時々世の中の要求にこたえて行けるかどうかで決まるのだ。

株式会社北嶋絞製作所

〒143-0003

東京都大田区京浜島2-3-10

TEL03-3790-2300

<http://www.kitajimashibori.co.jp/>